

6-1 2 2009年8月駿河湾の地震(M6.5)の前に見られた応力集中
Stress Concentration prior to the M6.5 Suruga-Bay Earthquake in August 2009

防災科学技術研究所

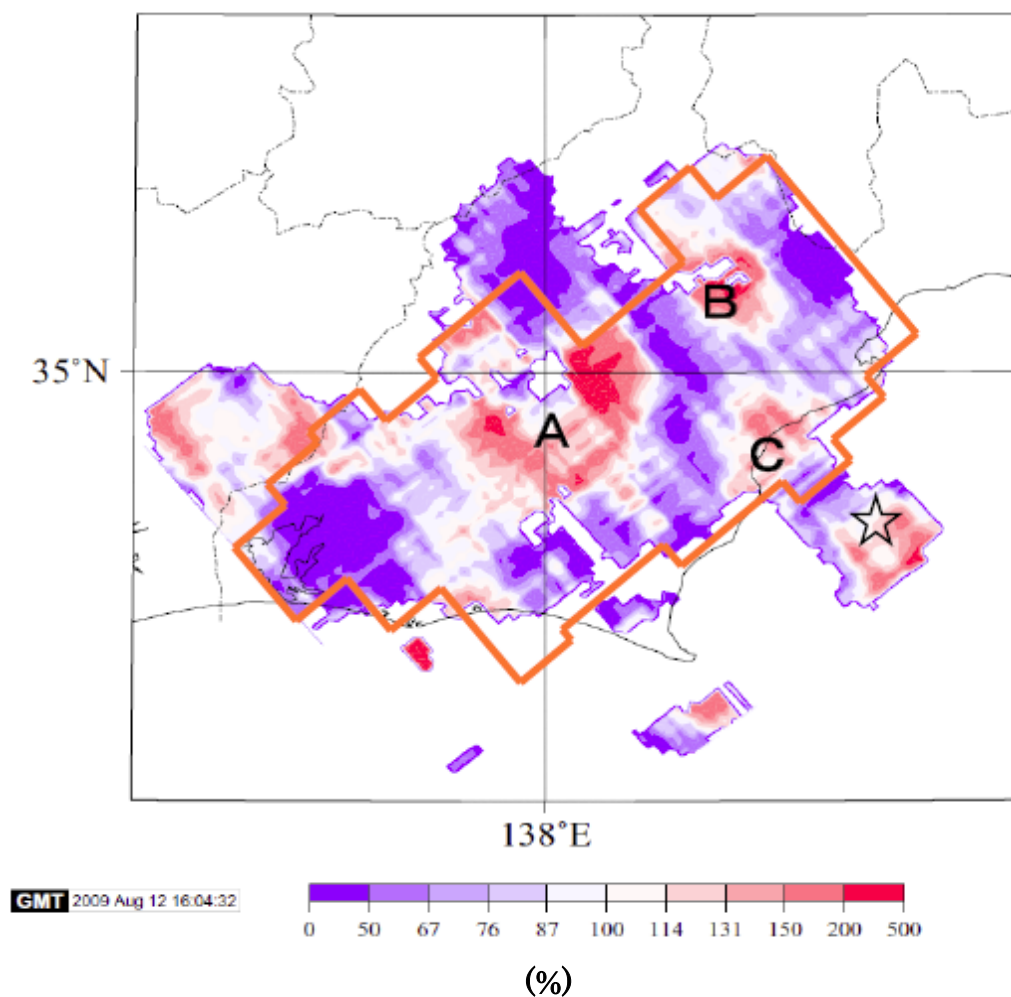
National Research Institute for Earth Science and Disaster Prevention

第1図は、フィリピン海スラブ内の微小地震活動（M1.5以上，デクラスタリング済み）について，基準期間（1986年6月～1996年5月）に対するスロースリップ期間（1999年8月～2005年4月）の活動度の増減割合を示したもの．赤（青）は，スロースリップ期間で活性化（静穏化）していた部分．オレンジ枠は，Matsumura¹⁾による推定固着域．A，B，Cの活性化域は，松村ほか²⁾によって，固着域内のアスペリティと推定されている．今回の震源（星印）は，推定固着域の枠外にあるが，活性化域のひとつとしてスロースリップ期間中に応力集中していた場所のひとつとみなされる．

（松村正三）

参考文献

- 1) Matsumura, S., *Tectonophys.*, 273, 271-291, 1997.
- 2) 松村正三・里村幹夫・内海さや香, *地震* 2, 60, 267-277, 2008.



第1図 地震活動変化（青：静穏化，赤：活性化）．デクラスタリング処理を施したM1.5以上の地震についてスロースリップ期間（1999年8月～2005年4月）の活動を基準期間（1986年6月～1996年5月）と比較している．オレンジ枠は，推定固着域．A，B，Cは，推定アスペリティ．星は，2009年8月駿河湾の地震．

Fig.1 Color contours correspond to the seismic activity ratios between the slow-slipping period (Aug. 1998 – April 2005) compared to the standard one (June 1986 – May 1996). Orange frame is the inferred locked zone. A, B, C are the inferred asperities. Open star is the epicenter of the 2009 Suruga-Bay earthquake.